

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102690
法人名	有限会社優寿の里
事業所名	グループホーム優寿の里
所在地	松山市堀江町甲207番地1
自己評価作成日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営者、ご利用者様とご家族、スタッフとご家族、みんなが支えあって一つの大きな「家族」となり、「生きること」に向き合いながら喜びや悲しみを共有し、共に協力して課題を解決していけるような、楽しく、温かく、学びある、安心できる「家庭」を築くことを目標にしています。  
スタッフは認知症ケアのプロとしての意識と向上心を持ち、「本人本位」という点を大切にして実践し、日々のケアがより質の高いものへと進化するように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は企業や工場に隣接する地域にあり、開設して15年目を迎える。「生活の質の向上、共に生きる姿勢、信頼関係の確立」という3つの理念を掲げ、いつも笑顔がある利用者主体の生活を実現しようと努めている。清掃が行き届き清潔な環境の中、利用者はゆったりと穏やかに役割を持ちながら暮らしている。公民館活動に参加したり、近くの図書館や美術館に出かける等地域の人々との交流の機会を大切にしながら、近隣の事業主との信頼関係をもとに、災害時の協力体制を構築するなど、地域に根ざした事業所として実践を積み重ねてきている。24時間医療体制を整備し、看取りにも積極的に取り組んでおり、多くの利用者の最期を看取った経験がある。幅広い年齢層の職員が良好なチームワークのもと、主体的に考えケアを行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優寿の里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 堀 恵子

評価完了日 2017年 1月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念と基本方針を目に付きやすい各所に掲示し、職員間で共有し、実践している。職員会での課題解決の話し合いでは理念に立ち戻り、方向性を確認している。 地域に信頼される開かれたホームを目指している。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した、「生活の質の向上、共に生きる姿勢、信頼関係の確立」という3つの理念を大切に継承し、いつも笑顔がある利用者主体の生活を実現しようと努めている。理念は玄関や共用スペースに掲示するとともに、便りに掲載して家族にも周知している。職員は介護計画を見直す際、理念に即した内容になっているか立ち返る機会を持ちながら、新しい介護方法を取り入れたり、関係機関と密に連携することで理念の実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームで使う野菜、魚、米、味噌、醤油、肉、牛乳、全て地産地消にこだわり、地域の方々との関わりを大切にして配達して頂いている。地域行事や地域施設も積極的に利用し、近隣の農家や工場の方々とも交流がある。</p> <p>(外部評価) 事業所は企業に囲まれた場所に立地しているため、会社や工場の職員と顔見知りの関係ができており、散歩の際に挨拶を交わしたり、災害時の協力体制を構築している。また、民生委員から情報を得て地区運動会、秋祭り、公民館活動に積極的に参加して交流の機会を持っている。利用者家族の繋がりを通して食材を購入したり、地元職員の子どもが友人を連れて訪れることもあり、地域との繋がりを大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ご家族様や職員に近隣地域の方が多く、地域行事の情報を得て積極的に参加するようにしている。 また、スーパーや銀行、図書館、飲食店などの近隣施設の利用や散歩などの外出を日常的に支援し、地域とのつながりを大切にしている。 事業所はいつもオープンにしており、ご相談や見学は随時お受けしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、ご利用者様のご様子やサービス提供の実際、解決課題の取り組みについて参加者に伝わりやすいように写真や資料を工夫して報告している。 意見交換の時間を余裕を持ってとり、参加された方々のご意見や情報を参考にさせて頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族や民生委員、他事業所職員、市担当職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利用者状況や活動報告のほか、外部講師を招いた勉強会を持ち、参加者全員から意見を聞けるよう工夫して運営している。会議録は職員に回覧するとともに、家族全員に送付して周知している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険課、高齢福祉課、生活福祉課の担当者はじめ、包括支援センターの方々には日頃から相談させて頂いたり、ご指導を仰いだりしている。 その都度適切なアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 市職員や地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握しており、情報提供や助言を得ている。管理者は他事業所との交流を図って協力関係を構築したいと考えており、市担当者へ支援を要請するなど、相談する関係ができています。また、生活福祉課職員は定期的に事業所を訪問し、共に協力して利用者を支援している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 社内研修や職員会で頻繁に題材に挙げ、身体拘束をしないケアについては職員全員が周知し実践できている。 さらに、事あるごとにケアを振り返り見直す機会を持つようにしている。</p> <p>(外部評価) 拘束をしないケアについてマニュアルを作成し、内部研修のテーマにも取り上げて職員は共通理解している。退院直後の転落や転倒の危険がある利用者に対し、安全を確保するために4点柵を使用する際は、家族の了承を得て短期間に留めるようにしたり、センサーや感知装置を活用して安全を図りながら自由に行動できるよう工夫している。言葉の拘束についても常に留意しており、気づいた時にはその都度注意し合える環境ができています。また、年2回不適切なケアを行っていないか、リストを活用して自己チェックし、振り返るようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体拘束と共に社内研修の題材に挙げ、虐待の定義を広く捉えて本人が不快に思う場面がなくなるように注意を払い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、活用できるように支援している。成年後見制度を利用されているご家族様からも相談を受け、必要に応じて対応させて頂いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明や質問の時間をゆっくりとって不安や疑問を解消し、ご納得いただいた上で契約を交わしている。 ご入居後も来所時にはご家族様の時間が許す限り交流の時間を持ち、ご意見やご要望を気軽に出して頂けるような信頼関係の構築に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご入居の際に月に1回以上の来訪を約束し、毎月の支援内容や経過を細かく報告させて頂いている。ご家族様から頂いたご意見ご感想は早急に反映するように努めている。	
			(外部評価) 事業所では利用料の支払いを兼ねて毎月面会に来てもらえるよう家族に依頼している。職員は笑顔で挨拶し、来訪した家族に利用者の状態を伝えと共に、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。担当者は毎月利用者の生活の様子を書いた便りを作成し、家族に渡したり送付している。さらに年2回無記名のアンケート調査を実施し、出された意見を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員連絡帳やスタッフミーティング、日常記録等で機会を設け、職員会やケース会議で話し合っ反映させている。スタッフとの現場感覚のズレがないように経営者・管理者も直接業務に携わり同じ目線でチームの一員として課題解決に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 経営者と管理者は職員の主体性を重視しており、現場に立ちながら状況を把握してフラットな関係を築いている。職員も何でも言える関係ができていると感じており、意欲的に意見や提案を行いながらケアに反映させている。また、地域の医療機関が実施している研修会に参加して医療知識を習得するなど、研修の機会を有効に活用している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員が働きやすい職場であることが良いケアに繋がると考え、個々の経験や能力・家庭の事情など、広く把握して能力の発揮と向上心が維持できるように考慮している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 日常業務に沿った研修課題を題材に選び、実体験を積みながら体験的学習をすることを中心に研修も積極的に取り入れて発表の場を設けることで職員のスキルアップを図っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 外部研修への参加や他施設の行事への参加、ホームの行事への招待他、医療・福祉関係者との交流の機会を通じて情報交換し、サービスの質の向上を図っている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人やご家族様から細かく事前聞き取り調査をし、ご入居後のご本人のダメージができる限り小さく済むように様々な角度から検討し、スタッフ間で共有してケアに生かしている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様の不安を解消するためにホーム内の見学や体験入居をしていただいたり、日常支援の写真記録を見ていただいたりして、ホームでの生活を知って頂いた上で、不安やご要望をお聞きし、丁寧に説明するように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご相談を受けた段階で細かく実情をお聞きし、支援の優先順位を検討し、他のサービス利用の橋渡しもふくめて本人・ご家族にとっての最善策を提案させていただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人が生きがいや役割を持った生活ができるように、コミュニケーションをとりながら個別に活躍の場面を提供し、成功体験を重ねていけるような支援をさせて頂いている。その中でスタッフにとっての様々な学びや癒し、達成感を感じることができている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様には月に1回以上の来訪をお願いし、ホームでの生活やご本人の変化を細かく報告している。 解決課題が生じた場合にはご家族様に連絡を取らせていただいて、ご意見・ご協力を仰ぎながら共に解決への糸口を探るように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や場所についてご本人・ご家族様から情報をいただき、ホームが橋渡しすることで行きたい場所へ行けたり会いたい人との交流が再開した事例はたくさんあり、今後も支援していきたい。  (外部評価) 家族や親族との関係が途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めており、面会に来られた時はくつろいで過ごせるよう配慮している。出生地や墓参りに行きたいという希望に応じて、家族と共に同行することもある。以前は馴染みの美容室や近所のスーパーに買い物に行く等していたが、利用者の認知症の進行に伴い、訪問に切り替えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 全室個室でプライベートな時間も大切にしながら、アクティビティ活動支援を通じてお互いを認め合い、自然と利用者同士の良好な関係が築かれている。 些細なトラブルはあっても、互いに許し、支えあう家族のような存在になっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後もご本人の経過を確認しながら必要に応じてご相談に応じたり、フォローさせて頂いたりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご家族様やご本人との会話を大切にし、そこから得た情報を職員間で共有してご本人の思いを探っている。また、ご本人の独り言や表情・些細な習慣やこだわりなどにも着目し、本人本位のケアを心がけている。  (外部評価) 職員は穏やかにゆったりと利用者とは会話することを心がけ、思いや意向の把握に努めている。特に利用者と1対1になることができる夜勤時や入浴介助時を捉えて意思疎通を図っている。意向を表すことが困難な利用者は目線や表情を注意深く観察することで推察したり、家族から情報を得て把握するよう努めている。知り得た情報は連絡簿に記載して、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との回想の会話やご家族様からの情報・入居者間の会話などからこれまでの暮らしを把握している。回想の会話を引き出すきっかけ作りをいろいろな場面で工夫して提供している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常業務をできる限りお年寄りと一緒に過ごす時間が多くとれるように工夫し、細かく観察・記録し、職員間で共有して現状の把握につとめている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日常記録やミーティング時の意見から課題を引き出し、ご家族様やご本人の要望も取り入れたケアの内容についてサービス担当者会議やモニタリングで慎重に検討して計画作成をしている。状態の急変や内容のずれが生じた場合は必要に応じて早急に主治医も含めたチームで内容を見直し、追加・変更している。	
			(外部評価) 各ユニットに介護支援専門員を配置し、利用者と家族の思いや意向を大切に、利用者ができることに着目して役割を持って暮らせるよう計画に取り入れている。介護計画は毎月開催するケース会議で職員が話し合い、現状に即したものになっているかを検討している。モニタリング様式はわかりやすく工夫されており、計画の見直しに役立つ内容になっている。介護計画は家族来訪時に説明して同意や理解を得ており、県外の家族には郵送時意見欄を設けて返信してもらっている。	介護計画を意識しながらサービス提供を行った結果として、利用者の表情や様子、言葉等を記録として残していくことにより、さらにモニタリングに生かす記録になることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常記録やチェック表で個別の様々な情報を把握し、ミーティングや連絡帳で共有して個々の支援の実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人や家族の要望、ホームの力量などを考慮してその時々ニーズに即した対応をチームで話し合い、アイデアを出し合って柔軟なサービス提供に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) スーパー・図書館・本屋・レストラン・銀行・郵便局・公園など、個々の要望や残存能力、生活習慣を把握した上で日常的に地域資源を利用し、社会との関わりを大切にしながら豊かな暮らしが楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月2回のかかりつけ医の往診と24時間連携体制をとっている。重度化や急変時には指示を仰ぎ、専門医や総合病院の受診も本人・ご家族の希望に応じて対応している。病状や経過の記録を提供し、納得のいく適切な医療を受けられる様に支援している。 (外部評価) 月2回協力医による訪問診療を受けることができるため、かかりつけ医を変更する利用者が多い。協力医は診療と合わせてゆっくりと利用者のお話を聞く時間を取り、状態を把握しているため利用者や職員の信頼が厚い。協力医は24時間緊急体制をとっており、看護師と連携しながら対応してもらえるため、安心して適正な医療にかかることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 個々の利用者の病歴や持病などを把握し、社内研修で医療的知識の向上に努め、些細な変化に早めに気づくことができるようにスキルアップを図っている。情報は迅速に連携看護師に伝えて適切な医療を受けられるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際にはご本人・ご家族・医療機関との橋渡し役となり、情報交換や治療・退院についての相談を行っている。退院後はかかりつけ医との連携支援によって安心して継続した医療が受けられるようになっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居時にご本人・ご家族に看取り指針の説明をさせて頂いている。重度化、終末期についての意思確認をとり、ケアプランのたびに再確認させて頂いている。ホームでできる看取りについて現状をご家族・職員と繰り返し話し合い共有している。 (外部評価) 事業所では看取り指針を作成して、協力医と連携して積極的に看取りに取り組んでおり、今までに多くの看取りを実践してきた。看取りの経験を持つ職員も多く、利用者の状態の変化に応じて適宜医師を交えた話し合いを行い、本人と家族の要望に添いながら悔いの残らない看取りができるよう努めている。職員は医療機関が実施する研修会に参加して研鑽を重ねている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時のマニュアルを作り、社内研修で繰り返し学習している。全職員が慌てずに適切な対応がとれるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作り、それに沿って準備・確認をしている。19日を防災の日と決め、毎回違った設定で訓練を重ねることで意識の向上と技術を磨く努力をしている。24時間稼働の隣接する工場に災害時の協力を依頼し、交流を図っている。  (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行うほか、毎月19日に様々な災害を想定した自主訓練を行って職員全員が災害時に行動できるよう訓練を重ねている。隣接の工場や企業に協力を求め、災害時24時間協力体制について同意を得ており、連絡先として登録している。また、避難訓練時にも参加を得ている。避難路を実際に車いすで移動可能か確認したり、備蓄品を完備して定期的に交換している。	事業所では避難用個人別カードを用意し、利用者の健康情報等が避難後も分かるように工夫するなど、様々な備えを行っている。さらに職員の緊急連絡や協力企業との連絡について試験的に実施し、検証することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活暦や性格・考え方を把握し、人生の先輩として敬う気持ちを持って接している。個々の誇りやプライバシーにも考慮し、「本人がされたい介護」を心がけている。  (外部評価) 経営者は利用者に対し、恥をかかせたり上から目線にならないよう、誇りや恥辱心に配慮した介護をするよう指導しており、職員は優しく丁寧に話しかけるよう努めている。また、居室やトイレ入り口に暖簾をかけて中が見えないよう工夫したり、排泄用品が見えないよう専用の収納家具を置いている。トイレ誘導時は近くに行き声をかけて恥辱心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の関わりの中で本人が発した言葉や目線、些細な仕草にも注目し、思いを探る努力をしている。意思の表出の苦手な方でもあきらめずに、本人本意の目線でかわり方を工夫することで自己決定ができるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 9人のお年寄りが本人の望まれるペースでその人らしい1日が過ごせるように、まずお年寄りの生活を優先して日常業務を柔軟に変更させて対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髭剃りや爪きりの日常支援はチェックリストで確認し、ホームの行事や外出の際には化粧やスカーフ、帽子などの小物を使ったおしゃれを楽しみ、喜んで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ホームの畑の採れたて野菜が食卓に上がったり、地産地消にこだわった美味しい旬の食材を使って個々の能力に合った形で調理や配膳に参加したりしている。食事の場面が生活の中の楽しみや役割の一つになっている。	
			(外部評価) ユニットごとに調理担当者が利用者の希望を聞きながら献立を考え、地域の店舗から新鮮な食材を購入して調理をしている。おいしく見た目もよい食事は利用者にも喜ばれており、職員も一緒に食卓を囲んでゆったりと食事を楽しんでいる。調査当日は手作りケーキで喜寿の祝いをしていた。利用者は野菜の下ごしらえや台拭き等できることを手伝っている。また、近くの喫茶店やファミリーレストランに外出に出かけることもあり、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスや個々の体調、好みに合わせた献立を工夫して提供している。定期的な血液検査や体重測定での健康管理と共に「口から食べる」ことに重きを置いている。水分摂取量の少ない方には好みの飲み物や提供回数を増やす等の工夫を凝らし、チェック表で摂取量を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後個別に口腔ケアを行っている。連携の訪問歯科医の指導の下で口腔衛生管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄パターンを把握し、誘導することでトイレでの排泄の習慣化を図っている。個々の残存能力を考慮して排泄の自立へ向けての支援を行い良好な結果が出ている。</p> <p>(外部評価) 排泄パターンを把握し、声をかけて誘導することにより、日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。利用者の状況や時間帯によって適した排泄用品を使用すると共に、経済的な考慮もしながら職員で話し合っていて決めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 下剤に頼らず自然な排便を促すよう排便習慣づけに取り組んだり、献立や水分量、運動量にも気を配っている。チェック表で個別に排便チェックし、適宜対応をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日お風呂を沸かし、入浴前にはバイタルチェックをして個々の希望や体調に合わせて実施している。拒否が多い方には声かけを工夫して安心して入浴を楽しんで頂けるように支援している。</p> <p>(外部評価) 家庭用浴槽に週2回を基本に入浴できるよう支援しているが、希望者は日曜日を除く毎日入浴することができる。浴槽への移動が困難になった利用者は、足浴をしながらシャワー浴を行い、気持ちよく暖まれるよう工夫している。入浴を嫌う利用者は無理強いすることなく、柔軟に対応している。ゆったりと会話を楽しみながら入浴をしたり、冬季はゆず湯を用意して入浴を楽しめるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 各人個室とリビングを個々のペースで利用し、休息や睡眠を十分にとられている。日中はお年寄りの興味のあるアクティビティー活動を提供して活動的に過ごしていただくことで心地よい夜間の良眠へつなぐように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表で各人の服用薬についてスタッフ全員が情報を共有している。新しい薬が処方された場合には内容を確認し、副作用等を理解したうえで慎重に経過を観察し、主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中に個々の活躍の場を生み出すことで喜びや生きがいを感じていただけるように支援している。季節行事や誕生日、外出などの非日常の楽しみをホームの暦で掲示して準備の段階から心待ちに楽しめるように工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の体調やその日の気分によって要望があれば外出できるよう日常的に支援している。 遠方の行きたい所、思い出の場所、墓参り、外食等へもご家族様や地域の方々の協力を得て出かけている。 (外部評価) 天気の良い日は事業所周辺を散歩しており、希望者を募って、公民館行事や図書館、近くの美術館に少人数で外出するなど、できる限り外出の機会を多く持つよう努めている。温泉や初詣、季節の花見物など遠出をすることもあり、家族の協力を得ながら車いすを使用する利用者も外出ができるよう支援している。近隣の事業所が開催するイベントに招待されて参加して交流するなど、利用者は様々な外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人、ご家族様と相談の上、被害妄想や管理能力を考慮して必要な部分を補いながらご自分で金銭管理をされている方もいる。できない方は小額のお小遣いをお預かりして外出時などに使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 特に制限することなく自由にやり取りができるように取り次いでいる。能力的に困難な方はスタッフが間に入ったり、できない部分を補ったりして交流を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は衛生的な環境を保つことを第一に考えて実践している。ご利用者様は日中ほとんどリビングで過ごされるため、季節に合わせた装飾をしたり、個々の生活ペースやご利用者様同士の関係性を考慮して座席配置を決めたりして心地よい場所となるように工夫している。	
			(外部評価) 事業所入り口には季節の花が生けられた花瓶が置かれ、共用空間は掃除が行き届き、清潔感あふれる空間になっている。壁に利用者の作品や行事写真が美しく配置され、落ち着いた雰囲気を作り出している。リビングには高さの異なるソファや食卓が置かれていて、利用者の状態に合わせてくつろげるよう工夫されている。オープンキッチンと木製の食器棚は家庭的な佇まいを醸し出し、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングテーブルの席やソファなど一人ひとり落ち着く場所が定着しており、ごろんと横になられたり、互いに会話を交わしたり手を握り合ったり体をさすったりと、ご利用者間のほのぼのとした光景が日常的に見られる空間となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室はご本人、ご家族と相談しながら安全面も考慮した上で、できる限りご本人の落ち着く空間となるように工夫している。使い慣れた家具やテレビ、家族の写真などを置き、一人ひとり個性あふれる空間になっている。	
			(外部評価) 各部屋の門札には写真が添えられ、自室がわかるよう工夫されている。居室にはエアコンとベッドが備え付けられているが、それぞれが馴染みの家具を持ち込んでいる。家族写真や自作の作品を飾るなど部屋ごとに個性的で落ち着いた雰囲気になっている。面会者が来た時にくつろげるよう複数の椅子を用意したり、愛読書を本棚に並べている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご利用者様全員の安全を確保した上で個々の残存能力や使い勝手を考えて家具や日用品の配置を工夫し、できないこともできるようになる環境づくりを心がけている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102690
法人名	有限会社優寿の里
事業所名	グループホーム優寿の里
所在地	松山市堀江町甲207番地1
自己評価作成日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の思いや願いを大切に考え、ご家族様と共にささえながら、社会から孤立されることなく、安心して生活を送られるようにスタッフはケアにあたっている。地域の医療機関と定期的な訪問診療があり、医療と連携しながら、健康管理をおこなっている。食においても、地域の食材を利用し、利用者のリクエストなどを聞きながら、職員と共に毎日楽しい時間を過ごしている。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は企業や工場に隣接する地域にあり、開設して15年目を迎える。「生活の質の向上、共に生きる姿勢、信頼関係の確立」という3つの理念を掲げ、いつも笑顔がある利用者主体の生活を実現しようと努めている。清掃が行き届き清潔な環境の中、利用者はゆったりと穏やかに役割を持ちながら暮らしている。公民館活動に参加したり、近くの図書館や美術館に出かける等地域の人々との交流の機会を大切にしながら、近隣の事業主との信頼関係をもとに、災害時の協力体制を構築するなど、地域に根ざした事業所として実践を積み重ねてきている。24時間医療体制を整備し、看取りにも積極的に取り組んでおり、多くの利用者の最期を看取った経験がある。幅広い年齢層の職員が良好なチームワークのもと、主体的に考えケアを行っている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優寿の里

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 堀 恵子

評価完了日 2017年 1月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念、基本方針を玄関、リビングに掲示し、職員間で共有、意識づけをし、ケアプランに組み入れて実践に繋げている。又、パンフレットに理念の文言を入れて家族様他に周知している。	
			(外部評価) 開設当初に作成した、「生活の質の向上、共に生きる姿勢、信頼関係の確立」という3つの理念を大切に継承し、いつも笑顔がある利用者主体の生活を実現しようと努めている。理念は玄関や共用スペースに掲示するとともに、便りに掲載して家族にも周知している。職員は介護計画を見直す際、理念に即した内容になっているか立ち返る機会を持ちながら、新しい介護方法を取り入れたり、関係機関と密に連携することで理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) お祭り、運動会など、地域の行事に参加したり、近隣の散歩時には、近隣住民と会話を持つなどして、地域から孤立する事無く、交流を深めている。	
			(外部評価) 事業所は企業に囲まれた場所に立地しているため、会社や工場の職員と顔見知りの関係ができており、散歩の際に挨拶を交わしたり、災害時の協力体制を構築している。また、民生委員から情報を得て地区運動会、秋祭り、公民館活動に積極的に参加して交流の機会を持っている。利用者家族の繋がりを通して食材を購入したり、地元職員の子どもが友人を連れて訪れることもあり、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議、面会時などにおいて、日々の支援方法を伝え理解して頂いている。買い物時には地域のスーパー等を利用したり、日常的に近隣の散歩で地域の人々との繋がりを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ご家族様、地域の方々に参加して頂き、日々の活動報告を行ったり、気にかかる事を議題にあげ、意見交換の場となっている。地域の方々から、地域行事の情報を得たりして、サービスの向上に活かしている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族や民生委員、他事業所職員、市担当職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では利用者状況や活動報告のほか、外部講師を招いた勉強会を持ち、参加者全員から意見を聞けるよう工夫して運営している。会議録は職員に回覧するとともに、家族全員に送付して周知している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で事業所の取組みを説明し、ご家族様から問題点があれば、介護保険課・地域包括支援センターなどに直接質問をしていただき、新しい情報やアドバイスを頂いている。</p> <p>(外部評価) 市職員や地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握しており、情報提供や助言を得ている。管理者は他事業所との交流を図って協力関係を構築したいと考えており、市担当者へ支援を要請するなど、相談する関係ができています。また、生活福祉課職員は定期的に事業所を訪問し、共に協力して利用者を支援している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) マニュアルを基に学習し、職員会議等で話し合う事で拘束しないケアの向上に努めている。また生命に危険が伴い、代替案のない場合及び緊急性のある場合には、ご家族様と相談し理解の上、対応している。</p> <p>(外部評価) 拘束をしないケアについてマニュアルを作成し、内部研修のテーマにも取り上げて職員は共通理解している。退院直後の転落や転倒の危険がある利用者に対し、安全を確保するために4点柵を使用する際は、家族の了承を得て短期間に留めるようにしたり、センサーや感知装置を活用して安全を図りながら自由に行動できるよう工夫している。言葉の拘束についても常に留意しており、気づいた時にはその都度注意し合える環境ができています。また、年2回不適切なケアを行っていないか、リストを活用して自己チェックし、振り返るようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルに沿って理解をし、外部研修会に参加したり、勉強会を実施する事で、虐待の徹底防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議での議題に掲げ介護保険課様にて、ご家族様に制度についての説明をして頂き理解を深めるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、御家族様が納得できるよう、改定時には、運営推進会議にて、説明を行い、理解、納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃から気軽に意見や要望を出してもらえよう関係作りに努めており、運営推進会議時には、行政の方の参加で説明をして頂き、運営に反映させている。	
			(外部評価) 事業所では利用料の支払いを兼ねて毎月面会に来てもらえるよう家族に依頼している。職員は笑顔で挨拶し、来訪した家族に利用者の状態を伝えると共に、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。担当者は毎月利用者の生活の様子を書いた便りを作成し、家族に渡したり送付している。さらに年2回無記名のアンケート調査を実施し、出された意見を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃から、職員からの意見や提案を聞ける関係性作りを考えており、毎月の職員会議に参加し、情報交換や意見の収集を行っている。  (外部評価) 経営者と管理者は職員の主体性を重視しており、現場に立ちながら状況を把握してフラットな関係を築いている。職員も何でも言える関係ができていると感じており、意欲的に意見や提案を行いながらケアに反映させている。また、地域の医療機関が実施している研修会に参加して医療知識を習得するなど、研修の機会を有効に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の日頃の努力や個々の状況を把握し、処遇に反映させて、各自が向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勤務状況や、経験年数、職員一人ひとりの力量に応じた外部研修の参加を行っており、定期的な内部研修により、技術や知識を身に付けていくことを支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者の研修会・夏祭りの参加で、意見交換、情報収集をし、サービスの質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に施設の見学、面談し、本人の思いや要望に耳を傾けながら、徐々に安心できる関係性を築いていけるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に施設の見学をして頂き、ご家族様の思い等をお伝えいただく為の話し合いの時間を持ち、要望に出来る限り応えられる支援方法の検討・相談を持てる関係作りの努める。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に以前に受けていたサービス関係者からの情報収集をし、必要としている支援内容を見極め、支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 理念の一つである「共に生きる姿勢」を大切に考え、利用者が安心できるように接していく事で、関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、近況報告と日常の会話の中から聞き取りした本人の思いを伝えて、ご家族様との絆を大切にし、ケアについて相談しながら支援していく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が大切にしてきた馴染みの人に面会に来ていただいたり、暑中見舞・年賀状を送るなどの支援をしている。  (外部評価) 家族や親族との関係が途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めており、面会に来られた時はくつろいで過ごせるよう配慮している。出生地や墓参りに行きたいという希望に応じて、家族と共に同行することもある。以前は馴染みの美容室や近所のスーパーに買い物に行く等していたが、利用者の認知症の進行に伴い、訪問に切り替えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) できる限りリビングで過ごす時間をもち、居室で孤立することなく、利用者同士が声を掛け合い、手伝い合いながら支え合えるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設や病院に移られる時には、本人の状態、状況等を記したアセスメントシートでの引き継ぎを行い、暮らし方を持続性に配慮してもらえるように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話の中から、個々の思いや要望を聞き、困難な場合には、本人の視点にたって職員間の会議で話し合い、共有している。  (外部評価) 職員は穏やかにゆったりと利用者とは会話することを心がけ、思いや意向の把握に努めている。特に利用者と1対1になることができる夜勤時や入浴介助時を捉えて意思疎通を図っている。意向を表すことが困難な利用者は目線や表情を注意深く観察することで推察したり、家族から情報を得て把握するよう努めている。知り得た情報は連絡簿に記載して、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人の会話の中から、又ご家族様からの情報提供で今までの暮らしぶりや、サービス利用状況の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の日常記録や身体状態の記録、引き継ぎにより、個人の現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 毎月の職員会議において、ケアのあり方について話し合いの場を作っている。ご家族様の面会時には、日々の状況報告を行い、要望などを聞きながら、介護計画にいかしている。医療面においても、主治医、看護師に状態報告をし、意見をいただいている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットに介護支援専門員を配置し、利用者と家族の思いや意向を大切にし、利用者ができることに着目して役割を持って暮らせるよう計画に取り入れている。介護計画は毎月開催するケース会議で職員が話し合い、現状に即したものになっているかを検討している。モニタリング様式はわかりやすく工夫されており、計画の見直しに役立つ内容になっている。介護計画は家族来訪時に説明して同意や理解を得ており、県外の家族には郵送時意見欄を設けて返信してもらっている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人記録・職員間の連絡帳にケアの気づきを記録をし、情報を共有しながら、職員会で話し合い、より良いケアに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用者のその時々にあったニーズに臨機応変に対応し、柔軟なケアに繋げていくように努めることで、事業所の多機能化に取り組んでいる。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域資源である地域包括支援センター、民生委員から情報を頂き、地域の人の力を借りて、豊かな暮らしを送っている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関とは24時間医療連携体制をとっており、特変時には、 指示を仰ぎ適切に対応している。又月2回の受診で身体の状態を伝 えている。状況に応じて専門医へは、ご家族様の協力を得ながら受 診をしている。	
			(外部評価) 月2回協力医による訪問診療を受けることができるため、かかりつ け医を変更する利用者が多い。協力医は診療と合わせてゆっくりと 利用者の話しを聞く時間を取り、状態を把握しているため利用者や 職員の信頼が厚い。協力医は24時間緊急体制をとっており、看護 師と連携しながら対応してもらえるため、安心して適正な医療にか かることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 月2回の受診時には、訪問看護師に気づきや情報を伝え、特変時に は、状態を報告し適切な指示を仰ぎ、医療支援につなげている。	
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、利用者が安心して治療が出来るように 本人の情報を 提供し、又、早期に退院できるように、 病院関係者、家族、本人 と情報交換・話し合いを持ちながら積極的な支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に、終末期について、看取りの方針と共に、事業所でできる 事を十分に説明をし、地域の医療機関と連携をとりながらチームで 支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では看取り指針を作成して、協力医と連携して積極的に看取 りに取り組んでおり、今までに多くの看取りを実践してきている。 看取りの経験を持つ職員も多く、利用者の状態の変化に応じて適宜 医師を交えた話し合いを行い、本人と家族の要望に添いながら悔い の残らない看取りができるよう努めている。職員は医療機関が実施 する研修会に参加して研鑽を重ねている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的にマニュアルに沿って勉強会を行い、全職員が、応急手当や初期対応を落ち着いてできるよう訓練を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) さまざまな状況での訓練をマニュアルを通じて定期的に行っている。又、隣接する企業への災害時の協力要請をお願いしている。  (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行うほか、毎月19日に様々な災害を想定した自主訓練を行って職員全員が災害時に行動できるよう訓練を重ねている。隣接の工場や企業に協力を求め、災害時24時間協力体制について同意を得ており、連絡先として登録している。また、避難訓練時にも参加を得ている。避難路を実際に車いすで移動可能か確認したり、備蓄品を完備して定期的に交換している。	事業所では避難用個人別カードを用意し、利用者の健康情報等が避難後も分かるように工夫するなど、様々な備えを行っている。さらに職員の緊急連絡や協力企業との連絡について試験的に実施し、検証することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室の入口には、のれんを掛ける事で、戸をあけたときにも目隠しになるように配慮している。利用者の声かけには、十分に気を配り、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。  (外部評価) 経営者は利用者に対し、恥をかかせたり上から目線にならないよう、誇りや恥辱心に配慮した介護をするよう指導しており、職員は優しく丁寧に話しかけるよう努めている。また、居室やトイレ入り口に暖簾をかけて中が見えないよう工夫したり、排泄用品が見えないよう専用の収納家具を置いている。トイレ誘導時は近くに行っても声をかけて恥辱心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃からゆっくりとお話を聞き、本人の希望や願いを引き出せるような関係づくりに努めている。意思表示の困難な方には、表情より、希望、好みを把握するように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は職員の都合に合わせる事なく、利用者一人ひとりの思い、希望を大切にし、その人のペースに合せた生活が送れるように、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 居室には、ヘアブラシ、鏡を置き、身だしなみを整えている。好みの服装を選び、スカーフ・アクセサリーをつけ、おしゃれを楽しんでいる。要望があれば訪問美容室を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月の献立会で誕生会、季節行事のメニュー一緒に考えている。農家から定期的に旬の野菜、魚を配達していただき、利用者と共に、下処理、食事作り、配膳、下膳と共に行っており、一緒に食事を楽しんでいる。 (外部評価) ユニットごとに調理担当者が利用者の希望を聞きながら献立を考え、地域の店舗から新鮮な食材を購入して調理をしている。おいしく見た目もよい食事は利用者にも喜ばれており、職員も一緒に食卓を囲んでゆったりと食事を楽しんでいる。調査当日は手作りケーキで喜寿の祝いをしていた。利用者は野菜の下ごしらえや台拭き等できることを手伝っている。また、近くの喫茶店やファミリーレストランに外出に出かけることもあり、利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員が水分不足、栄養不足に意識を持ち、バランスのとれたメニューの提供を考えている。個々の食事量、水分量を毎日チェックを行っている。定期的に血液検査、体重測定する事で状態を把握している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 研修を通じて口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に個々にあったケアをしている。毎晩、義歯洗浄剤により口腔内を清潔に保持出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人記録やチェック表により、排泄パターンを把握し、トイレへ誘導することで、排泄の失敗を減らすように支援を行っている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、声をかけて誘導することにより、日中はなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。利用者の状況や時間帯によって適した排泄用品を使用すると共に、経済的な考慮もしながら職員で話し合って決めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝食にきな粉、バナナヨーグルトを提供し、繊維の多く含まれた食材の摂取と、個々の状態に合わせた適度の運動を働きかけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や体調に合わせて、一人ひとりゆっくりと入浴できるように支援している。介護度の高い利用者には、2人介助にて安全に入浴していただいている。	
			(外部評価) 家庭用浴槽に週2回を基本に入浴できるよう支援しているが、希望者は日曜日を除く毎日入浴することができる。浴槽への移動が困難になった利用者は、足浴をしながらシャワー浴を行い、気持ちよく暖まれるよう工夫している。入浴を嫌う利用者は無理強いすることなく、柔軟に対応している。ゆったりと会話を楽しみながら入浴をしたり、冬季はゆず湯を用意して入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合せ、本人の活動状況、ストレス状態を職員が把握し、休息、睡眠がとれるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤師より薬の目的、副作用について説明を受け、症状の変化時には、主治医に相談して、指示を仰いでいる。薬の変更時には、様子観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の残存機能を活かした、一人ひとりに合った役割を持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候、体調に応じて、建物周辺の散歩に出かけている。普段行けない場所には、ご家族の協力を得て外出支援を行っている。  (外部評価) 天気の良い日は事業所周辺を散歩しており、希望者を募って、公民館行事や図書館、近くの美術館に少人数で外出するなど、できる限り外出の機会を多く持つよう努めている。温泉や初詣、季節の花見物など遠出をすることもあり、家族の協力を得ながら車いすを使用する利用者も外出ができるよう支援している。近隣の事業所が開催するイベントに招待されて参加して交流するなど、利用者は様々な外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在の入居者の力量では、金銭管理は難しい状態である。今は家族様と話し合いを持ち使った分のみ、個人請求を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の要望時には、連絡できるように支援している。ご家族に優寿の里便り、年賀状、暑中見舞いの発送をしており、ご家族との信頼関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の場所は、湿度・温度を適温に保ち、適宜な換気で心地よい空間となっている。、季節の花や壁面には四季折々の飾りで季節感を採り入れている。</p> <p>(外部評価) 事業所入り口には季節の花が生けられた花瓶が置かれ、共用空間は掃除が行き届き、清潔感あふれる空間になっている。壁に利用者の作品や行事写真が美しく配置され、落ち着いた雰囲気を作り出している。リビングには高さの異なるソファや食卓が置かれていて、利用者の状態に合わせてくつろげるよう工夫されている。オープンキッチンと木製の食器棚は家庭的な佇まいを醸し出し、居心地の良い空間になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングでは、ソファや椅子に腰かけて、自由に新聞や書籍を読まれたり、テレビを観たり、気の合う者同士で会話などを楽しまれている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、テレビ、置物、家族の写真を持ちこみ、本人好みの部屋を作り、居心地良く過ごすことができるようになっている。</p> <p>(外部評価) 各部屋の門札には写真が添えられ、自室がわかるよう工夫されている。居室にはエアコンとベッドが備え付けられているが、それぞれが馴染みの家具を持ち込んでいる。家族写真や自作の作品を飾るなど部屋ごとに個性的で落ち着いた雰囲気になっている。面会者が来た時にくつろげるよう複数の椅子を用意したり、愛読書を本棚に並べている利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの歩行状態や視力、認知機能を配慮し、歩行時の妨げとなる物を排除し、安全で過ごす事ができる環境を作っている。</p>	